NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク

尾瀬ネットワーク通信

Vol.26. No.2　2023 年 8 月（第 96 号）

―――――目　次―――――

尾瀬の気象変動を探る・・・・・・・・・・・・・1.-2
福島側活動報・・・・・・・・・・・・・・・・・3-5
群馬側活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-7
尾瀬水質調査の試み・・・・・・・・・・・・・・8
尾瀬の野鳥の基礎調査・・・・・・・・・・・・・9
事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・10

尾瀬の気象変動を探る

～降雨と気温を観る～

副理事長　大山　昌克

尾瀬は本州中央部に位置する山岳地域です。公園内はビルや家屋、アスファルト道路など人工物はほとんどなく車両もほとんどありません。都市部のようなヒートアイランド現象（都市部の気温がその周辺の郊外部に比べて高温を示す現象）の影響は発生しにくく「ありのままの気象変化」を捉えることができ、長期の気象観測に適した地域と考えられます。気象の長期変動は亜高山帯に顕著に現れると指摘する専門家もいます。

【鳩待峠の降水を調べる】

尾瀬には気象のデータ収集を目的とした気象庁「アメダス」の設置はありません。国土交通省の観測所（国土交通省水管理・国土保全局所管）があり、降水や積雪量の計測を行っています。観測所はダムの貯水量の推計が目的と思われます。このデータを取得して雨の降り方の変化や傾向を探ってみました。（28 年間×365 日×24 時間（1 時間ごとの降水量）＝約 24 万 5000 データ情報を検証）

【降水量/降水日数の検証】

検証期間は、当会設立、NPO 法人化前後の 10 年間（1995～2004 年）と、直近 10 年間（2013～2022 年）を比較しました。

年/降水量	（19%/257 ㎜増加）
年間降水量は逓増	
10 年平均（1995～2004 年）	1379mm
10 年平均（2013～2022 年）	1636mm

年/降水日数	（27%/41 日増加）
年間降水日数は激増	
10 年平均（1995～2004 年）	154 日/年
10 年平均（2013～2022 年）	195 日/年

※降水日数は、日/1 ㎜以上の日数をカウント

年ごとに気象変化は当然あるものの、驚くことに 10 年間平均で降水量は年/257 ㎜増加していました。257 ㎜増加とは夏期の 1 ヶ月分の降水量に匹敵します。また降水の日数は、ひと月分を超える年/41 日増加となっていました。

【強雨の検証】

尾瀬の散策では多少の降雨は許容できますが、かつて強雨により尾瀬ヶ原で学生 3 名の水死事故が発生していますので、降雨の推移はリスク管理として侮れません。都市部の強雨は、ある程度の排水機能や高い建物、避難場所が整備されていますが、尾瀬は集水地です。特に尾瀬周辺の降雨は土壌浸透が飽和状態になれば、水流は尾瀬ヶ原を目指して勢いを伴い集まります。そのため国土交

通省利根川ダム統合管理事務所では、「累加雨量 50 mm」を片品川の氾濫基準値として注視、状況により警戒、氾濫危険、氾濫発生を発令します。

累加雨量は、降り始めから連続した日数の降水量を合計して計算しました。保有データ 28 年間（1995～2022 年）では、209 回の「累加雨量 50 mm」越えを確認しています。期間 1995～2004 年では、年 6.6 回のペースでしたが、直近 10 年では年 8.0 回まで増加しています。季節は 6～9 月期が多いです。

期間	累計強雨	年/平均
10 年（1995～2004 年）	66 回	6.6 回
10 年（2013～2022 年）	80 回	8.0 回
通期/1995～2022 年	209 回	7.5 回

◎【6 時間/46 ㍉の日】（2022 年 5/27 日）

累加降雨 46 ㍉/1 時間最大 14 ㍉

2022/0527＝累加降水量46㍉（1時間最大14㍉）								
日付	5/27	5/27	5/27	5/27	5/27	5/27	5/27	5/27
時間	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00
降水量㍉	0	**3**	**4**	**5**	**8**	**12**	**14**	0

朝 6 時台から降始めた雨は、10 時頃には総雨量は 30 ㍉を超えた。川上川橋を越水、木道は冠水。

＜5/27 午前 10:27 分頃撮影/原の川上川橋＞

写真提供/尾瀬保護財団

30ミリ越え	50ミリ越え	80ミリ越え	100ミリ越え
木道歩行困難	木道完全水没	木道流出	絶望の危機
		救出困難	低体温症の恐れ
		幹線道路の土砂崩れ 救急の緊急車両通行不能の恐れ	

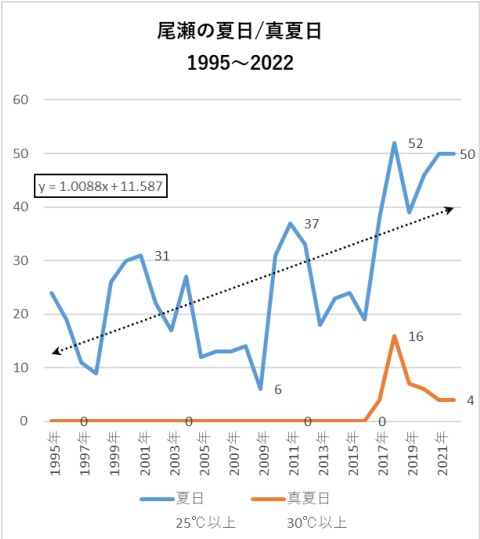
まさに雨の降り方が「激化」していると言えます。年/8.0 回の強雨の内、2.2 回は 100 ㍉越えであり木道は完全に水没し、ハイカーがもしいれば歩行不能状態に陥ったと思われます。なお気象庁では 1 時間 20～30 ㍉の降雨を強雨と表現しますが、尾瀬ではもっと少ない降水量であっても、盆地状の集水地のため瞬く間に木道は冠水します。

【気温】高温の常態化

夏期の気温の指標として「夏日」「真夏日」の用語があります。それぞれ最高気温が 25℃以上、30 度以上の日であり気象用語です。過去 10 年間（1995～2004 年）と直近 10 年間（2013～2022 年）の夏日、真夏日を比較検証しました。

比較検証 10年	夏日 トータル日数	真夏日 トータル日数	期間中の 最高気温	9月夏日 トータル
1995 ～2004年	216日	0日	29.9℃	9日間
2013 ～2022年	359日	41日	33.2℃	37日間

かつて尾瀬では真夏日（30℃以上）の発生は、ほとんど経験がなく、10 年間トータル日数「ゼロ」であったものが、直近 10 年間の真夏日（30℃以上）は 41 日間（年 4 日平均）でした。また夏日は 9 月期にまで波及しています。（参考文献は P10 に表示）



◎福島側(第 1 回)活動報告

監事　円谷　光行

5 月の尾瀬御池の気候は山々に残雪あるためかひんやりとした空気の冷たさと木々の芽生え前の小枝が温かさを待って小刻みに揺れ動いていた尾瀬でした。

5 月 13 日(土)御池田代湿原の残雪は林床内に少しあり、そこにはミズバショウとリュウキンカが可愛いらしく顔を出し始め、またスモウトリ田代湿原も林床には同じく芽を出始めたところでした。

今年の温かさは例年より 7～10 日ほど早い状態でした。湿原の雪解けは通年 5 月 25 日頃には溶けてなくなりますが、雪が少なめなのか、温暖化の影響なのか、平年よりかなり早い雪解けでした。

数年前から御池田代湿原入口から入った約 30m 先の木道脇にシカ・熊などの侵入調査のため監視カメラが 2 基設置されています。この日はシカによるヌタ場は確認されませんでした。

今回は日帰りによる調査活動であり、時間が限られるため御池駐車場周辺のゴミ拾いやクロサンショウウオの産卵前の状況を観察しました。

参加者　＜磯部、鍋山、円谷＞

御池田代木道に設置された監視カメラ

御池田代湿原/木道沿いのミズバショウの芽

◎第 2 回　福島側活動報告

帝釈山オサバグサ生育環境調査

福島側担当理事　佐久間治光

活動日　2023 年 6 月 10 日(土)11 日(日)

10 日、檜枝岐村第 17 回オサバグサまつり開催前日の馬坂峠駐車場には、早くも 10 台ほど駐車していた。昨年は生憎どしゃ降りの中での調査となりましたが、本日は絶好の登山日和。

帝釈山登山口にある馬坂峠標高 1,790m の標識を確認し整備された登山道へ、今回は田代山往復、長丁場の調査です。

標高 1790m の登山口よりシラビソやオオシラビソの針葉樹林帯に入ると早速オサバグサの個体が確認できる。これより登山道に沿って山頂直下 2000m までの緩斜面の針葉樹林の林床に以前ほどの密度は無いものの、小さな個体ながら群落を作り生育している。

帝釈山山頂部では、眺望さえぎることなく日光連山と尾瀬の山々が迎えてくれた。山頂の岩場は、ハイマツに覆われアヅマシャクナゲが美しいピンクの花を咲かせていた。

山頂直下 2000m 尾根道の狭い岩場ではヒカリゴケ発見、怪しい光を放っていた。帝釈山、田代山間では冷涼な空気が漂いオサバグサも大きな個体の群落がみられ予想以上の密度で生育が確認できた。

登山道は危険個所に梯子が取り付けられるなど整備され大変歩きやすく地元の方々の努力に感謝したい。

草本層にはオサバグサの他、ミツバオウレン、コミヤマカタバミ、オオカメノキ、ゴゼンタチバナ、コヨウラクツツジ、マイヅルソウ、ツルシキミ、ラショウモンカズラ、セリバオウレン、ヒメイチゲ、ヒロハテンナンショウがみられた。

田代山山頂部では、タテヤマリンドウ、イワカガミ、チングルマ、コバイケイソウ、ヒメシャクナゲなどがみられた。

一属一種の日本の固有種であるオサバグサは生

育場所が限られている希少種。氷期以来この地に存続しているオオシラビソの樹林帯がオサバグサの生育環境に重要であり、いつまでも変わらずに後世に残したい景観です。

第 2 回活動参加者(12 名)
磯部義孝、磯野敏一、伊藤アケミ、伊藤佳美、大杉和子、佐々木弘樹、佐久間治光、高槻弘美、高橋絹江、円谷光行、刀光夫、鍋山智之

オサバグサ

◎第 3 回　福島側活動報告

シャトルバス添乗解説入山指導と
御池登山口周辺植生観察
福島側担当理事　佐久間治光

活動日 2023 年 7 月 8 日(土)9 日(日)

本日の燧ヶ岳はすっぽりと雲の中。毎回お世話になっている会津バス発券所前にブースを設置して入山指導とシャトルバス添乗解説を開始する。天候のせいか出足が鈍いようだ。御池駐車場は 100 台位の駐車で寂しい状態です。先頭を切って鍋山さんがバスに乗り込みます。

いつものように、駐車場周辺の清掃と植生調査を実施。ムラサキツメクサ・シロツメクサ・セイヨウタンポポ・イヌタデ・オオバコ・ヒメジヨオン・ゲンノショウコなど多くの外来種が確認された。入山指導後は、御池田代から上田代までの植生観察を実施、時折小雨の降る生憎の天候でしたが、姫田代ではサワラン、トキソウが密度濃く咲いていてキンコウカが花芽を延ばしていた。雨が強まったので上田代は断念。

村で遅めの昼食を取り、檜枝岐の歴史と文化に触れることとした。早速、六地蔵から石碑石仏群と歩みを進め檜枝岐歌舞伎の伝承館へ、千葉乃家花駒座の星座長さんから伝承館正面の素敵なポスターのエピソードを伺い、直々に舞台の説明や村の歴史に至るまで詳しくお話いただきました。帰り際には橋場のばんばの謂れまで教えていただきました。お忙しい中ありがとうございました。

夕方、定宿ひのき屋で磯部さん、円谷さんと合流後ミーティングを行い翌日の行動について話し合った。

今日は日曜日、朝方まで降っていた雨も止み天気回復を期待しながらバス発券所前にブースを設置。先頭を切って円谷さんが添乗解説にバスへと乗り込み本日も活動開始です。

木道の歩き方など転倒防止を呼びかけ、注意を促した。

入山指導終了間際に関東方面からの観光バスで、

海外からのツアー客の一団が到着。燧ヶ岳の登山口を確認している模様。現在時刻 10 時半、午後から雷の予報も出ていた。詳しい予定は分からないが無謀ともいえるツアー登山は危険です。
入山指導後、御池登山口周辺の植生観察実施です。標高 1550m周辺での観察は磯部理事長、伊藤アケミさんの説明付きで、多様な植物が確認できました。

本日確認できた草本層は、ミヤマトウバナ、ツルリンドウ、ツバメオモト、サワラン、ウラジロヨウラク、ハクサンチドリ、ヒオウギアヤメ、ワタスゲ、レンゲツツジ、キンコウカ、トキソウ、コオニユリ、オニノヤガラ、ツルコケモモ、ゴゼンタチバナ、ハナニガナ(白・黄色)、ズダヤクシュ、ノウゴウイチゴ、エンレイソウ、オオバのヨツバムグラ、オオバタケシマラン、ツルアジサイ、モミジバカラマツ、マイヅルソウ、ワタスゲ、ニッコウキスゲなどがみられた。

＜第 3 回参加者(8 名)＞
磯部義孝、伊藤アケミ、伊藤佳美、佐々木弘樹、佐久間治光、刀光夫、円谷光行、鍋山智之

◎第 2 回群馬側活動

群馬側担当理事　小鮒　守
群馬側担当理事　須賀邦雄

5/21（晴）気温（8 時）12.9°C　最高 20.5°C
5/22（曇）気温（8 時）11.7°C　最高 15.8°C

【絶滅危惧種を観る】

リュウキンカ、ミズバショウやショウジョウバカマに代表されるように 5 月下旬から尾瀬ヶ原は花の季節を迎えます。今回は鳩待峠より入山して最も距離のある燧ケ岳西麓まで足を延しました。お目当ては花期を迎えたトガクシソウです。

トガクシソウ（トガクシショウマ）は、メギ科に属します。研究者によれば、広葉樹林下の渓流沿いに生息。1 属 1 種でしかも類似した形態の植物が他になく、起源の古い植物と考えられ、分類学的に貴重とのことです。途中春の花々や野鳥のさえずりを聞きながら徒歩約 5 時間。お目当ての群落を確認できました。花を付けた数十株が渓流の法面に燦然と輝いて咲き誇っていました。

シカ食害防止用のネットの設置前であり、ネットは斜面に置かれたままでしたが、食害の形跡は見えず、また盗掘の気配も感じませんでした。なお確認できたトガクシソウ群落の所在地の公表は敢えて控えます。群落の位置情報に起因した盗掘に繋がることを恐れています。（内緒にします）

トガクシソウ　準絶滅危惧 NT（環境省）、
絶滅危惧種ⅠA類（群馬県/福島県）

【野鳥の宝庫】

キセキレイ

モズ

ホオアカ

上記写真以外にも、ヒバリやハクセキレイ、アカゲラなど木道から見るだけでも相当な種類が確認できます。オオジシギの撮影も望んでいたのですが、姿は見えず声も聞こえずの状態でした。次回以降に再チャレンジです。

【外来種も花ざかり】

宿泊施設の上質化（立て替）が決まり、取り壊しのため鳩待山荘は小屋を閉めていました。小屋周辺にはセイヨウタンポポが花盛りです。またシロツメクサ、エゾノギシギシ、ヒメジョオン、ドクダミなどは例年通りの顔ぶれでした。竜宮周辺の湿地ではオランダガラシも花期を迎えていました。一方赤田代のオランダガラシはほとんど確認できず、あの水面が見えないほど繁茂していたオランダガラシはどこに消えてしまったのか不思議です。

【尾瀬のゴールデンルート】

この言葉は、宿泊した竜宮小屋の主人からお聞きした言葉です。「この花盛りの時期にトガクシソウまで見に来るなんて、まさに尾瀬のゴールデンルートを歩かれたのですね」と話されていました。天候に恵まれ、この時期にしか見ることができない希少種の確認ができたことは実に満足でした。

参加者 8 名（五十音順）

飯沼、大山、小鮒、須賀、高橋（友）、
高橋（ま）、福島、結城

◎第 3 回群馬側活動

・2023/0701（土）/　雨（日/降水量 6 ㍉）
・（山の鼻）気温/（最高）20.5°C（最低）14.3°C
群馬側担当　小鮒　守
群馬側担当　須賀邦雄

【登山道「みず道」の検証】

至仏山の山開きに合せ、登山道の確認を行いました。（鳩待峠より至仏山登山道へ入山）

2023 年春期は極端に少ない残雪であったにもかかわらず、登山道は深く掘られた状態であり、登山道を歩くというより水たまりの道を歩くという感じです。階段状の木道下部は、激しい滝のような流水の影響で大きな穴まで掘られています。

鉄砲水の発生は、大人でさえ水没事故の危険性をはらんでいます。ここもと総雨量増加、頻発する豪雨を考えると、洗堀箇所の修理や補修のみな

らず、登山道自体のルート変更（付け替え）も早期検討して欲しいものです。2023 年 6 月期の降水量は統計開始以降最高の 286 ㍉の降水量になり、例年のほぼ 2 倍、河川氾濫の水準越え（累加 50 ㍉以上）は 2 回もありました。頻発する強雨を鑑みますと、事故「未然防止策」の対応は焦眉の急と言えます。

入山口より約 1 時間（2km）深さ 120 ㌢の洗堀

【木々の花々】

林床には雨に濡れたコイワカガミやズダヤクシュ、ハリブキの花々、視線を上げればナナカマドやオガラバナ、ハウチワカエデ、テツカエデ、ミズメの花がまさに満開でした。湿原の花々に注目が集まる尾瀬ですが、見ることが少ない樹木の花々を相手に、貴重なシャッタチャンスの日となりました。原見岩周辺はミヤマキンポウゲ、ガクウラジロヨウラクが咲き誇っていました。

オガラバナ（ムクロジ科カエデ属）

【絶滅危惧種の確認】

結城会員による「絶滅危惧種 2 種」の撮影写真をご紹介します。

◎オゼソウ（サクライソウ科オゼソウ属）は、絶滅危惧Ⅱ（VU）で、日本の固有種、一属一種であり、蛇紋岩残存植物です。

◎ホソバヒナウスユキソウ（キク科ウスユキソウ属）は絶滅危惧Ⅱ（VU）/蛇紋岩変形植物です。

【外来種調査】

本日は「至仏山山開き」のセレモニーのため、鳩待峠の入山口には仮設テント、即席の神棚、宿泊業者ら 30 名ほどが集まっていました。

鳩待峠には相も変わらず、外来種や里の草本類で満ちあふれていました。オオバコ、アカツメクサ、エゾノギシギシ、ドクダミ、綿毛が飛び去ったセイヨウタンポポなどいつもの顔ぶれでした。

（外来植物調査報告は紙面の都合上、別の機会に）

【尾瀬沼の水質調査にトライ】

高谷会員は至仏山の活動参加ではなく、尾瀬沼の「水質調査」にトライしました。群馬側の活動時では尾瀬沼までは、なかなか足を伸ばせないためです。COD 値の計測に加え、大腸菌群の計測にも挑戦しています。本年 3 月刊行「福島県環境白書」尾瀬沼の水質データには驚かされました。都市部であれば取水はもちろん、原因がはっきりするまでは立ち入り禁止の措置となるほどの尾瀬沼大腸菌群による汚染状態でした。

◎尾瀬水質調査の試み　　～中間報告～

指導員　高谷秀史（2021 年入会）

2023 年 6 月/7 月期に尾瀬沼の水質調査を試みました。未経験のため参考文献として陸水学雑誌 65 号 ＜Japanese Journal of Limnology＞(2004)『尾瀬沼の水質に及ぼす人為汚染の影響』（影山志保 ・角野 猛 ・諸岡 信久）を参考にして試行錯誤でしたがトライしました。

尾瀬沼の調査項目は 10、水質調査地点は 8 ヶ所選定。現地での測定（4 項目）は、水温、PH,EC（電気伝導度）、TDS（総溶解固形物）です。自宅測定（パックテスト）は 5 項目であり、COD（化学的酸素要求量）、NH4-N（アンモニウム態窒素）、NO2-N（亜硝酸態窒素）、NO3-N（硝酸態窒素）、PO4-P（D）（りん酸態りん）です。また恒温器を用いて 37℃×15 時間かける大腸菌群の測定も試験紙を使い自宅測定で行いました。なお使用したパックテスト（簡易水質検査器具）は、共立理化学研究所「川の水調査セット」、大腸菌群調査は、柴田科学の大腸菌調査紙です。

【調査日の天候】

気象条件	日/降水量 三平峠	尾瀬沼 最高気温	尾瀬沼 最低気温	
6/2調査前日	67ミリ	14.1	10.8	
6/3調査当日	5ミリ	15.2	9.1	朝方まで豪雨
7/1調査前日	6ミリ	18.4	14.4	
7/2調査当日	0ミリ	26.4	12.1	今年初の夏日

【尾瀬沼調査地点】

【調査測定データ表】

2023/6月・7月実施		G		H		A		B		C		D		F		E	
調査項目	調査地	三平下取水口（尾瀬沼側）		沼尻流出口（尾瀬沼側）		沼尻川 沼尻トイレ脇		オンダシ沢		沼尻川 大江湿原南端		長蔵小屋下の湧水		尾瀬沼東端（波止場）		尾瀬沼山荘東の小沢	
	調査内容および基準	6月3日	7月2日	6月3日	7月2日	6月3日	7月2日	6月3日	7月2日	6月3日	7月2日	6月3日	7月2日	6月3日	7月2日	6月3日	7月2日
水温（℃）		16.2	18.4	15.5	18.6	15.5	18.3	11.2	10.3	12.4	12.2	11.0	7.0	14.8	19.2	11.1	7.8
PH	6.5以上8.5以下	7.85	7.06	7.15	7.31	7.16	7.31	5.02	5.66	6.10	6.59	5.64	5.73	6.74	6.80	6.51	6.43
TDS（ppm）総溶解固形物		18	21	15	27	15	21	0	3	3	13	19	29	12	21	2	15
EC（μS/cm）電気伝導度		37	43	30	52	34	43	0	9	13	35	42	58	23	43	7	31
COD（mg/L）化学的酸素要求量	3mg/L以下	3	4	5	5	5	4	7	4	8	2	1	1	2	4	2	1
NH4-N　アンモニウム態窒素	生活排水など	0.40	0.67	1.16	0.70	0.69	0.60	0.48	0.50	0.27	0.70	0.40	0.85	0.57	0.76	0.56	1.00
NO2-N　亜硝酸態窒素	汚れの流れ込み	0.008		0.011		0.008	0.050	0.019	0.030	0.012	0.020			0.027	0.030	0.015	
NO3-N　硝酸態窒素	食品・肥料由来	0.21		0.22				0.25		0.40		0.91	2.00	0.25		0.45	
PO4-P（D）りん酸態りん																	
大腸菌群　1,000MPN/100mL以下	点（表＋裏）				9	2	12			4	3			6	4		
	コロニー													1			
総窒素	0.2mg/L以下	1.189	0.871	2.125	0.910	0.642	0.945	1.118	0.749	1.728	0.976	4.524	9.905	0.980	1.087	2.230	1.300

※⇒全窒素は総和法の場合、アンモニウムイオン（＝NH4-N値 x 1.3）＋亜硝酸イオン（＝NO2-N値 x 3.3）＋硝酸イオン（＝(NO3-N値-NO2-Nx8) x 4.4)

2023 年 3 月公表の福島県環境白書によれば、尾瀬沼の大腸菌群は一時環境基準の 24 倍という驚くべきデータが記録されています。また上記調査は回数が少ないため確かなことは言えませんが、生活排水などのアンモニウム態窒素は、全観測地点で増加しています。今後とも注視していきたいと思います。

◎尾瀬の野鳥の基礎調査（2023/4 月～7 月期）～中間報告～

指導員　高谷秀史（2021 年入会）

2023 年も昨年に引き続き「尾瀬の野鳥の基礎調査」を行いました。

環境変化に敏感な鳥類のモニタリングを通じ、中長期の生息環境変化を探ることが目的です。野鳥の生息環境は森林、山岳、草地、湖沼、林床、河川などさまざま異なりますが、尾瀬の自然環境の変化を探る一つの指標になると考えています。また湖沼の汚染、湿原の乾燥、温暖化による気温の上昇や降雨降雪量の変化などの影響をまともに受ける鳥類は、環境変化のバロメータと考えています。今年は尾瀬ヶ原、大清水～三平下、尾瀬沼のラインセンサス（※）に、どのような野鳥の声が聞こえるのか、目視や鳴き声によって確認された鳥類を確認、記録します。

（※）あらかじめ、決められたルートに沿って動植物の出現種数等を調査する方法。

ホオジロ	アカゲラ

【種同定に利用しているアイテム】

鳥の音声は音声収録機器（TASCAM DR-5）を用いて収音して、自宅で再生および再確認する。

【26 種―172 羽の確認】

	◎「種」別で多く確認された鳥
①	ウグイス（32羽）
②	ヒガラ（22羽）
③	メボソムシクイ（12羽）
④	オオルリ（10羽）
⑤	カケス（8羽）

	◎「科」別で多く確認された鳥
No.1	ウグイス科（ウグイス）
No.2	ヒタキ科（オオルリ、キビタキなど）
No.3	シジュウカラ科（ヒガラ、コガラなど）
No.4	ムシクイ科（メボソムシクイなど）
No.5	カッコウ科（ジュウイチ、カッコウなど）

三鳴鳥の一つであるオオルリを尾瀬ヶ原、尾瀬沼でも確認、大清水でトラツグミが夜中に気味悪く鳴いていたのも確認、また長蔵小屋の裏側を、オオジシギがつがいで飛び回る姿も確認しました。初めての貴重な体験でした。

事務局だより

◎今後の活動予定

月	日程	地域	主な企画（案）
8月	11（金）	福	福-賛助会員の日 活動-第 4 回
	11（金）～12（土）	群	群-賛助会員の日 高山植物調査（笠ヶ岳）
	20（日）	福	※特別活動 オオハンゴンソウ駆除
9月	9（土）～10 日	福	特別研修-那須三斗小屋温泉
	15（金）～16（土）	群	尾瀬ヶ原の環境調査-水質/野鳥
	23（土）	福	※特別活動 オオハンゴンソウ駆除
	30 土～10/1（日）	合同	秋期尾瀬アカデミー （尾瀬沼）
10月	7（土）～8（日	福	活動-第 5 回 特別活動/シカ柵撤去 オオハンゴンソウ調査
	7（土）		沼尻不法投棄物除去作業

※特別活動は尾瀬保護財団より要請の場合に対応

＜ご案内＞

◎（公財）緑の地球防衛基金

第 15 回研究・活動報告会の開催日程が決まりました。日程/2023 年 10 月 13 日（金）14 時～

会場/東京　馬事畜産会館

◎第 1 回理事会

日程：2023 年 11 月 12 日（日）13:00～

会場：郡山建設組合 2F　会議室

議題：1.今年度の活動状況報告

2.次年度の活動計画（案）ほか

◎ご注意

三条の滝方面の登山道、三条の滝展望台は、年内「通行止め」となっています。

◎P1～2 の参考文献

・尾瀬山の鼻地区の気象 30 年.尾瀬の自然保護― 30 年間の取り組み ―平成 20 年 3 月（群馬県）

・尾瀬の自然保護第 1 号～第 45 号

編集後記

鳩待山荘および休憩所の立替え計画が公表された。計画では 2023 年中に鳩待山荘を解体し、反対側に新設する休憩所とともに 2 年がかりで建設。2 階建ての新山荘は、建築面積約 290 平方メートル、延べ床面積約 500 平方メートルで、全て洋室とし定員を 66 人から 42 人に減らしてゆとりを確保する、と新聞は報じている。休憩所は約 440 平方メートル。新施設の完成後に取り壊すそうだ。

国立公園満喫プロジェクト等推進事業費 132 億円は、新施設建設などの補助金に充当するとも聞く。全国の国立公園内では新施設やリニュアル工事が、着々とハイペースで実施されている。インバウンドの受入環境向上が旗印だ。「国立公園の保護と利用の好循環」と言うものの、ある国立公園では環境団体や生態学者による監視もないまま、観光促進の地方財界と環境省の協働で、特別保護地区を一部 2 段階格下げして、第 2 種特別地域に変更。そこに集団施設地区をつくる事例まで認可されている。傍若無人の「手口」に対し国会でも追及の質問がされた。

NPO 法人

尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.26.　No.2　2023 年 8 月 20 日

発行人　：磯部　義孝

編集担当：大山　昌克

Web 担当：鈴木　誠一

■本部事務所（事務局）

〒969-0402 福島県須賀川市仁井田字大谷地 378-1　info@oze-net.com

電話/0248-76-1365　Fax/0248-72-5865

＜電話番号が変更になっています＞

■群馬支部

〒371-0846 前橋市元総社町 2－21－12 小鮒方

電話/027-251-1089